

美学美術史学科へ入学して

岩尾 美保子

(大分市教育委員会文化財課嘱託)

私は平成6年に別府大学文学部美学美術史学科実技専攻（現芸術文化学科）に入学し、その後同大学大学院文化財学専攻へ進み、現在大分市教育委員会文化財課嘱託として大分市の様々な遺跡の発掘調査に携わっています。

もともと絵を表現することが好きだったのですが、さらに学芸員の資格をはじめ、各種の資格が取れるのを楽しみに、別府大学美学美術史学科実技専攻を受験しました。入学した当初、実技の時間の都合上資格を取るのが困難である事実を知った事から、先生にも反発しましたが、今考えると自分の努力不足であったと反省しています。

その後4年間実技の実習を先生方に受けながら、美術史の概論の授業を受けていく中で、仲嶺先生の仏教美術の授業に出会えたことによって、より深く仏教美術を追求していきたいという思いから、実技卒業後、理論で大学院へと進ませていただきました。修了までには思っていた以上はかなり辛く、何度もリタイアしたいという思いに駆られました。その度に先生方や、同じく修了を目指す友達に救われて、3年間かかってしまいましたが、なんとか修了を果たすことができました。今ではあの時諦めなくて本当に良かったと思っています。

縁あって現在文化財課の嘱託として発掘の日々を送っていますが、当初まったく違う学問の仕事へと飛び込んで行くことによって、まったく美術の世界と離れてしまうのではないかと大変不安を感じていました。しかし、幸運なことに1年目で豊後国分寺跡の調査に参加させてもらい、古代の仏教寺院の遺構や瓦等の遺物を自分の成果として直に触れることによって、自分の学んできた仏教美術に関わることが出来ました。さらに同じく別府大学美学美術史学科を卒業した先輩が同じ仕事でがんばっている姿を見て安心しました。大学に入ってからその時までずっと、美術の世界と考古学はまったく違うものだと思っていました。しかし、見方や方法は少し違うとはいえ、過去の真実を追求していく姿勢は同じであると感じました。その事で自分のそれまでの考え方が変わりました。勿論それまでに無かった一から勉強しなければならないことが沢山あります。しかし、今までの大学における勉強が無駄になる事はありません。

私は美学美術史学科に入学する事が出来、先生方に教えて頂いた事により、自分の世界を広げていけたことを本当に良かったと思っています。